

飯山市の統計

平成23年(2011年)版

長野県飯山市

統計の利用にあたって

- 1 本書は、飯山市の市政に関する統計資料を収録したものです。
- 2 資料は、各官公庁・団体および会社からの提供、また、本市において直接収録したもので、資料の出所は、各表の注に付記してあります。
- 3 期間については、年次とあるのが1月から12月まで（暦年）、年度とあるのが4月から3月まで（会計年度）です。
- 4 数値の単位未満は四捨五入してありますので、総数欄の数値と内容が一致していない場合もあります。
- 5 統計表中の符号の用法は次のとおりです。

- 「0」 単位未満
- 「-」 皆無または該当数字がないもの
- 「…」 資料なし、または不祥不明のもの
- 「△」 マイナス
- 「X」 該当数字の公表を差し控えたもの

はじめに

平成23年(2011年)版「飯山市の統計」を刊行いたしました。

本書は飯山市の人口・産業・経済・社会・教育・文化など、各分野にわたり基本的な統計資料を総合的に収録し、市勢の状況と推移発展の姿を明らかにしようとするものです。

本市の姿をご理解いただくとともに、行政をはじめ各分野において、企業経営、市民生活の向上などの基礎資料として広くご活用いただければ幸いです。

統計は人口・産業の動きなどから、私たちがこれからのまちづくりを進めるうえで貴重な資料となります。ご利用に際して不十分な点もあろうかと思いますが、皆様からのご意見、ご指導によりまして、なお一層の充実を図ってまいります。

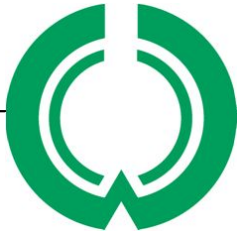
終わりに、本書の編集にあたり、貴重な資料をご提供いただきました関係の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

飯山市長 足立 正則

総目次

| | | |
|-------|-------|----|
| 概況 | | 1 |
| 自然 | | 4 |
| 人口 | | 7 |
| 農林業 | | 30 |
| 商工業 | | 39 |
| 観光 | | 50 |
| 運輸 | | 53 |
| 労働 | | 55 |
| 建設・水道 | | 57 |
| 社会福祉 | | 62 |
| 保健・衛生 | | 68 |
| 消防・治安 | | 76 |
| 教育 | | 82 |
| 文化 | | 87 |
| 行財政 | | 94 |



飯山市章

昭和29年8月1日の市制施行日に制定。
「いいやま」の文字をデザインしたもので、円は、協調と発展を表します。市旗は、地色が黄緑で、市章が白です。

飯山市民憲章

わたしたちは、奥信濃の豊かな自然に生まれ、ふるさとへの限りない愛情をきずなとして生活している飯山の市民です。

わたしたちは、きびしい雪と闘ってきた先人の歩みをうけつぎ、市民の平和と幸福と自治を保障し、精神の創造をふくむ個性的な「生産の都市」として、このまちを成長させようと決意しています。

わたしたちは、市民の名誉にかけ、互いに手をたずさえて、この崇高な理想と目的を達成することを誓います。

1. 子どもを愛し、おとしよりを敬い、温かいまちをつくります。
(連帯協力の原則)
2. 自然を守り、環境を整え、美しいまちをつくります。
(環境充足の原則)
3. 健康で働き、生活を楽しみ、幸せなまちをつくります。
(健康安全の原則)
4. 文化を育て、創意を生かし、明るいまちをつくります。
(創造進歩の原則)
5. 対話を行い、自治を進め、平和なまちをつくります。
(市民自治の原則)

細 目 次

概況

| | |
|---------|---|
| 飯山市の概況 | 1 |
| 飯山市のすがた | 2 |
| 市町村合併系図 | 3 |

自然

| | |
|---------|---|
| 年別気象状況 | 4 |
| 降雪量 | 5 |
| 日降雪の最大値 | 5 |
| 月別積雪 | 6 |

人口

| | |
|--------------------------------------|----|
| 人口と世帯数 | 7 |
| 年齢各歳別人口 | 9 |
| 人口動態 | 12 |
| 県外・県内市町村別移動者数 | 13 |
| 年齢別移動者数 | 15 |
| 年齢3区分別人口 | 16 |
| 地区別年齢5歳階級別人口 | 17 |
| 行政区別世帯数及び男女別人口 | 18 |
| 昼間人口 | 21 |
| 流入・流出者市町村別内訳 | 21 |
| 人口集中地区面積・人口・世帯数の推移 | 21 |
| 産業別人口 | 22 |
| 世帯の家族類型(22区分)別一般世帯数・ 一般世帯人員及び親族人員 | 23 |
| 配偶関係(4区分)・年齢(5歳階級)・ 総数男女別15歳以上人口 | 25 |
| 配偶関係(4区分)・年齢(5歳階級)・ 総数男女別15歳以上人口 | 26 |
| 世帯人員(10区分)別一般世帯数及び 一般世帯人員 | 27 |
| 施設等の世帯の種類(6区分)別施設等の 施設等の世帯人員 | 27 |
| 県下19市及び近隣町村の人口・世帯数 | 28 |
| 住民登録人口 | 29 |
| 外国人登録人口 | 29 |

農林業

| | |
|---------------------|----|
| 専・兼別農家数の推移 | 30 |
| 平成22年 専・兼別販売農家数行政区別 | 30 |
| 経営耕地面積 | 33 |
| 経営耕地規模別農家数 | 33 |
| 借入耕地面積 | 34 |
| 貸付耕地面積 | 34 |
| 林野面積 | 35 |
| 保有山林面積規模別林家数 | 35 |
| 農業産出額 | 36 |
| 個別農産物産出額順位 | 36 |
| 自営農業に従事した年齢別世帯員数 | 38 |
| 農業従事者平均年齢 | 38 |

商工業

| | |
|--------------------|----|
| 商業の概況 | 39 |
| 誘致企業の状況 | 40 |
| 卸・小売別年間商品販売額 | 40 |
| 工業の概要 | 41 |
| 産業別製造品出荷額の推移 | 43 |
| 産業大分類別事業所数・従業員数の推移 | 45 |
| 事業所に関する集計 | 47 |
| 地場産業の状況 | 49 |

観光

| | |
|-------------|----|
| 観光地別観光消費額 | 50 |
| 観光地別観光客入込状況 | 52 |
| スキー場の入込客数 | 52 |

運輸

| | |
|--------------------|----|
| 車種別保有台数 | 53 |
| 道路の状況 | 53 |
| 除排雪の状況 | 54 |
| JR飯山線主要駅乗車人員(飯山市内) | 54 |

労働

| | |
|----------|----|
| 職業紹介状況 | 55 |
| 雇用保険給付状況 | 56 |

建設・水道

| | |
|---------------|----|
| 住宅地分譲状況 | 57 |
| 公営住宅の状況 | 57 |
| 市営水道の概況 | 58 |
| 上水道使用の推移 | 58 |
| 下水道事業費 | 59 |
| 公共下水道事業の概況 | 60 |
| 特定環境保全公共下水道事業 | 60 |
| 農業集落排水事業 | 60 |
| 市下水道事業の状況 | 61 |

社会福祉

| | |
|------------------|----|
| 生活保護の状況 | 62 |
| 家庭児童相談処理状況 | 62 |
| 身体障害者手帳交付者数の状況 | 63 |
| 老人福祉の状況 | 63 |
| 募金実績額の状況 | 64 |
| 保育所の状況 | 65 |
| 国民年金受給件数及び受給額の推移 | 66 |
| 交通災害共済の状況 | 67 |

保健・衛生

| | |
|-------------|----|
| 医療関係施設の状況 | 68 |
| 医療従事者数 | 69 |
| 主要死因別死亡者数 | 69 |
| 特定死因の死亡者数 | 70 |
| 国民健康保険被保険者数 | 71 |
| 国民健康保険の概況 | 72 |
| 老人保健法による医療費 | 73 |
| ごみ処理の状況 | 74 |
| し尿処理の状況 | 75 |

消防・治安

| | |
|--------------|----|
| 消防団と消防機械 | 76 |
| 火災の発生件数と出火原因 | 77 |
| 事故種別救急出動状況 | 79 |
| 交通事故発生件数 | 80 |
| 検察事件受理及び処理状況 | 80 |
| 刑法犯罪発生検挙件数 | 81 |

教育

| | |
|------------------|----|
| 小学校の状況 | 82 |
| 小学校別児童数の推移 | 82 |
| 中学校別学年別生徒数 | 83 |
| 中学校別生徒数・学級別の推移 | 83 |
| 中学校学年別生徒数の推移 | 83 |
| 高校進路別卒業者の推移 | 84 |
| 高校卒業者の就職状況 | 84 |
| 高校卒業者の産業別大分類別就職者 | 85 |
| 高校生徒数・教職員数の推移 | 86 |
| 中学校進路別卒業者の推移 | 86 |

文化

| | |
|---------------------|----|
| 図書館入館者数 | 87 |
| 図書館利用者数 | 87 |
| 図書館蔵書数の推移 | 88 |
| 図書種別蔵書数 | 88 |
| 伝統産業会館入館状況及び美術館入館状況 | 89 |
| 長峰スポーツ公園利用状況 | 90 |
| 指定文化財 | 91 |
| 飯山市ふるさと館利用推移 | 93 |

行財政

| | |
|------------------------|-----|
| 普通会計歳入歳出決算状況 | 94 |
| 市税収入の推移 | 95 |
| 選挙人名簿登録者数 | 96 |
| 各種選挙結果 | 97 |
| 議会会議結果 | 98 |
| 議会議員所属委員会 | 99 |
| 歴代市長・助役・副市長・収入役・議長・副議長 | 100 |
| 飯山市組織機構図 | 101 |

飯山市の概況

(1) 位置・地形

飯山市は、長野県内で最も低い千曲川沖積地に広がる飯山盆地を中心に、西に関田山脈、東に三国山脈が走る南北に長い地形をもっており、南西部には斑尾高原、北西部に鍋倉山東部には北竜湖などがあり、多くの自然資源に恵まれた地です。

この南西の斑尾山から北西の鍋倉山に連なる関田山脈によって、日本海暖流の比較的暖かく湿った風が上昇し、積乱雲を形成して雪を降らせるため、日本でも有数の豪雪地帯となっています。

(2) 沿革

飯山は、古くから山国信州と日本海を結ぶ交通の要所として栄え、魚、塩など海産物の集散地、また大和朝廷の越後・出羽開拓の重要な駅路としての役割を担い、奥信濃の中心地として発達してきました。

戦国時代においては、上杉謙信が川中島に出陣する際の前線基地として、戦略的にも重要な地となり、永禄7年（1564年）には千曲川左岸に飯山城が築かれました。

飯山の都市形成は、この飯山城を中心になされ、幾度かの城主の変転を重ねる中で、しだいに城下町としての機能が発達し、また、新田開拓とかんがい用水の整備が積極的になされ、農業の基盤が確立されました。

明治維新後は、明治4年の廃藩置県によって飯山県となり、さらに長野県に編入され、町制は明治22年に施行されました。戦後の昭和29年8月の町村合併法の施行により、飯山町を中心に秋津村・柳原村・外様村・常盤村・瑞穂村・木島村・岡山村を編入し、現在の姿に至っています。

明治26年、飯山を経由しない信越線の開通により、徐々にその物流拠点としての機能を失い、その後は農業を中心として飯山仏壇、内山紙などの伝統工芸をはじめとする地場産業により発展しました。しかしながら、昭和30年代の後半からの高度経済成長期において、産業の立地する条件をもたなかったこと、さらに豪雪地域であることから経済成長が停滞し、若年層を中心とした人口の流出を生じました。

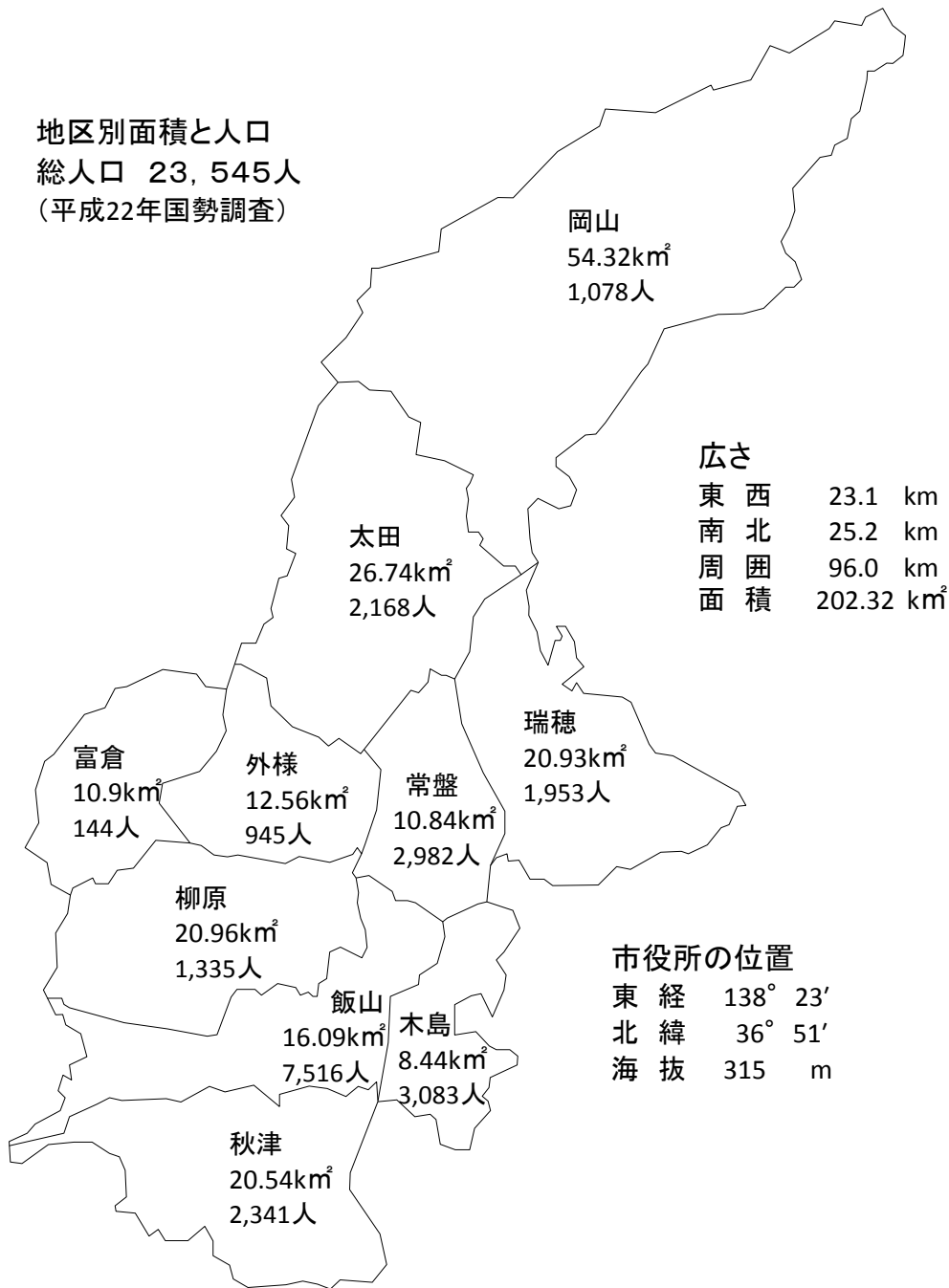
市の文化・市民性としては、江戸時代から続く寺町文化・雪国らしい連帯と強調の精神があげられ、名僧正受老人の正受庵をはじめとする寺社景観や斑尾高原、信濃平、戸狩温泉、なべくら高原、千曲川、北竜湖などの自然資源とあわせて、日本のふるさとにふさわしい豊かな風土と魅力をつくりだしています。

また、平成26年度末に控えた北陸新幹線駅開業に向け、開業効果を最大限引き出すためのアクションプランを平成21年3月に策定し、平成22年4月には回遊性のあるまちづくり（まちなか観光）第二次アクションプランを策定しました。

さらに、高橋まゆみ人形館開館、学校教育の拠点となる中学校整備を行い、平成22年11月には「まちづくり課」を設置し、四季の変化を活かした美しい景観に富んだ街づくりを念頭に市街地の整備事業を具体的に推進していきます。

飯山市のすがた

地区別面積と人口
 総人口 23,545人
 (平成22年国勢調査)



地目別土地面積(平成23年1月1日現在)

単位 km²

| | | | | |
|------------|------------|-------------|-------------|--------------|
| 田 22.30 | 畑 21.47 | 山林 72.91 | 原野 17.56 | その他 59.14 |
| 宅地 6.30 | | 池沼 0.06 | 雑種地 2.58 | |

- 1) 総面積は、国土地理院発表の「全国都道府県市区町村別面積調」による。
- 2) 地目別面積は、「固定資産税の土地に関する概要調書」による。

市町村合併系図

